

令和4年度 平塚市総合計画 市民ワークショップ 実施報告書



令和5年3月

■ワークショップでとりまとめた完成版

いつでもホットするまち

- ・年齢や性別に関係なく交流ができる居場所がある
- ・赤ちゃんがニコニコしながら親子で散歩できている
- ・子どもがたくさん大切な思い出を作っている
- ・海、山、川などの豊かな自然にいつでも触れ合うことができる
- ・多くの人が平塚市を訪れている

平塚が平塚を潤しているまち

- ・新しい企業が創業し、老舗企業も時代に合わせて変革している
- ・若者が平塚で働きたいと思える場所がある
- ・若者、子育て世代、高齢者、障がい者など、誰もが理解し合い、働く場所がある
- ・仕事も趣味も満足できる環境が市内に揃っている
- ・食と再生可能エネルギーを地産地消している

自然と賑わいが共存するまち

- ・誰もが自然を大切にしている気持ちを持っている
- ・海、山、川を活かしてスポーツ、レジャーなどの観光資源が充実できている
- ・活気ある商店街と市民が、魅力を発信してバスっている
- ・七夕などの文化が継承されている
- ・目で見て楽しめる、食べて楽しめるお店がある

**未来につなげる
私たちが主役のひらつか**
“協力・チャレンジして明るい未来へ”

心豊かな生活ができるまち

- ・通勤に時間をかけずに、余暇に使える時間が持っている
- ・市の文化や歴史を知る機会がある
- ・レジャーなどの趣味が実現できている
- ・コスパが良く、様々な暮らし方を選択することができる
- ・文化施設や総合公園、公民館等がより開放されて人が集まっている

**いのちを大切に、
安心・安全に暮らせるまち**

- ・防災対策が充実している
- ・防犯対策が充実しており、治安が良い
- ・交通事故がなくなっている
- ・交通網や交通手段が改善され、「どこでもドア」がなくても便利に移動できている
- ・上下水道やごみ処理など、暮らしに密着した生活環境が充実している。

**お互いを認め合い、
優しいまち**

- ・人生を切れ目なく自助、共助、公助でサポートできている
- ・社会人、子ども、みんながいつまでも学ぶことができる
- ・市民、企業、市が将来に向けて協力し合って考えて行動している
- ・地域全員が子育てを応援して、余裕ができている
- ・異文化を受入れて、外国語を使って外国の人と話している
- ・誰にとっても過ごしやすいバリアフリーが実現されている

**全員参加のコミュニケーションが
活発なまち**

- ・時代、世代に合わせた伝達手段を使って、必要な情報が必要な時に手に入る
- ・新鮮な情報が人から人へ伝わっている
- ・市、市民、企業がまちの魅力を発信している
- ・市民の意見がまちづくりに反映、共有されている
- ・子どもたちが平塚市のことを好きになっている

■参加者の皆様

A グループの皆様



B グループの皆様



C グループの皆様



D グループの皆様（撮影日には、1人欠席）



E グループの皆様



F グループの皆様



目 次

1	「平塚市総合計画市民ワークショップ」の概要.....	1	-
	(1) 開催趣旨	1	-
	(2) 応募状況	1	-
	(3) 参加者の決定.....	1	-
	(4) 市民ワークショップの全体プログラム.....	2	-
2	第1回市民ワークショップ.....	3	-
	(1) 実施概要	3	-
	(2) 実施結果	3	-
3	第2回市民ワークショップ.....	15	-
	(1) 実施概要	15	-
	(2) 実施結果	16	-
4	第3回市民ワークショップ.....	29	-
	(1) 実施概要	29	-
	(2) 実施結果	30	-
5	第4回市民ワークショップ.....	37	-
	(1) 実施概要	37	-
	(2) 実施結果	37	-
	参考資料.....	44	-

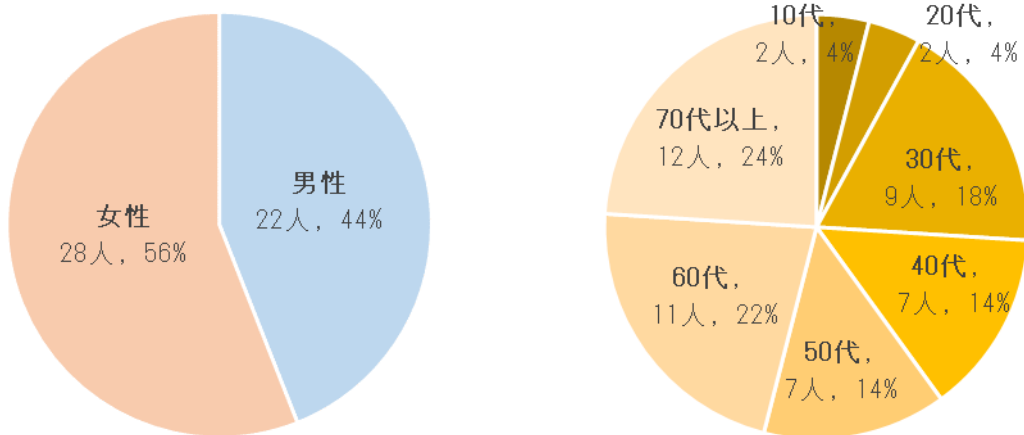
1 「平塚市総合計画市民ワークショップ」の概要

(1) 開催趣旨

「平塚市総合計画市民ワークショップ（以下、「市民ワークショップ」という。）」は、（仮称）次期平塚市総合計画」を策定するに当たり、幅広い市民の方から意見をいただき、市民の視点も踏まえたまちづくりを進める基礎資料とするために開催した。

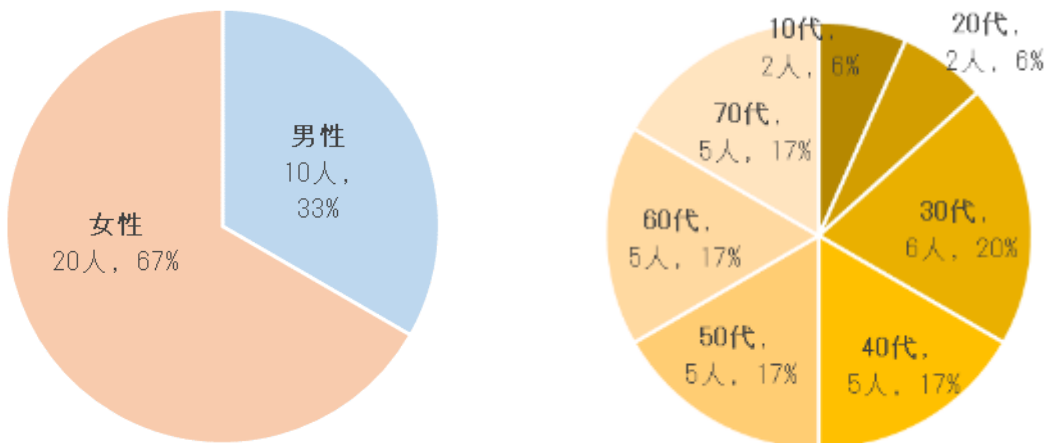
(2) 応募状況

市民ワークショップは、「令和4年度平塚市市民意識調査」にご協力いただいた市民の方（住民基本台帳から、3,000人 を無作為抽出）を対象として、参加者を募り、50人（内訳は次のグラフを参照）から応募があった。



(3) 参加者の決定

応募人数が募集人数を大幅に超えたため、年齢、居住地、参加可能日数等のバランスを考慮した調整の結果、30人（内訳は次のグラフを参照）を参加者として決定した。



(4) 市民ワークショップの全体プログラム

開催日時	場所	実施内容
第1回市民ワークショップ 令和5年1月28日(土) 9時～11時	平塚市役所 本館3階 302会議室	1. 開会 2. 基調講演 題名：「平塚市をとりまく状況 ～将来像に向けて」 講師：東海大学政治経済学部／ サステナビリティ研究所 教授 大熊 一寛 氏 3. 情報提供 (1) 平塚市の総合計画 (2) 将来の平塚市の人口予測 (3) 平塚市の税金の使われ方 (4) 令和4年度平塚市市民意識調査 結果概要【速報】 4. その他(自己紹介) 5. 事務連絡
第2回市民ワークショップ 令和5年2月5日(日) 9時～12時	平塚市役所 本館3階 302会議室	1. ワークショップ ・「ひらつかの好きなところ・あまり好きではないところ」について、6つのグループに分かれてグループワークを実施 ・「将来どうなってほしいか」について、グループワークを実施 2. 事務連絡
第3回市民ワークショップ 令和5年2月12日(日) 9時～12時	平塚市役所 本館3階 302会議室	1. ワークショップ ・「10年後20年後にどんなひらつかを残したいか」について、「まちの姿」や「その具体的イメージ」をまとめた。 2. 事務連絡
第4回市民ワークショップ 令和5年2月25日(土) 9時～12時	平塚市役所 本館3階 302会議室	1. ワークショップ ・これまでのワークショップを踏まえて作成した「10年、20年後に残したいまちの姿」のとりまとめ案について、各グループで意見交換し、結果を発表した。 ・各グループの意見を反映した修正案に対して、参加者全員で意見交換を行い、全体の意見を整理した完成版にまとめた。 2. 写真撮影 3. 閉会

2 第1回市民ワークショップ

(1) 実施概要

■開催日時、場所

日時：令和5年1月28日（土） 9時～11時

場所：平塚市役所本館3階302会議室

■参加者

25人（男性10人、女性15人）

■当日プログラム

1. 開会

2. 基調講演

題名：「平塚市をとりまく状況～将来像に向けて」

講師：東海大学政治経済学部／サステナビリティ研究所

教授 大熊 一寛 氏

3. 情報提供

(1) 平塚市の総合計画

(2) 将来の平塚市の人口予測

(3) 平塚市の税金の使われ方

(4) 令和4年度平塚市市民意識調査結果概要【速報】

4. その他（自己紹介）

5. 事務連絡

(2) 実施結果

1. 基調講演

基調講演の主な内容は、次のとおり（配布資料：[別紙1](#)）

<人口・経済の状況と国のビジョン>

少子化が進行しており、2020年の出生数は84万1千人と過去最低を記録し、人口は2008年をピークに減少局面に入っている。東京圏への転入超過は増加し続けてきたが、新型コロナウイルス感染症が社会経済に与えた影響から大きく減少した。

経済成長率は低下してきている。日本経済・地域経済の中では製造業が大きな比重となるが、2000年頃以降の成長は頭打ちである。一方、農業では、農林水産物・食品の輸出は増加しており、8年連続で過去最高を記録している。観光では、年間3,000万人を超えるインバウンド需要に支えられ、観光・宿泊業は大きく成長してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンド需要は大きく後退した。

国では、「まち・ひと・しごと創生基本方針（2021）」、「デジタル田園都市国家構想基本方針（2022）」など、様々な計画や方針を打ち出しており、コロナ危機を経験した次に

迎える時代に向けて、DX（デジタル化）やGX（グリーン化）など、新しい可能性や考え方が議論されている。

<平塚市の状況>

東京圏周辺という位置にあることから、地方部に比べて人口減少は小幅であるが、減少する見込みとなっている。

雇用が多い基幹産業は、輸送機械、化学製品、商業であり、移輸出が多い基盤産業は輸送機械、化学薬品である。農業は耕地面積が県内3位、稲作の面積・収穫が県内1位になっている。

<新しい潮流と今後>

コロナ危機以降、地方移住に関心を持つ人の割合が増加している。これはデジタル化が進む中で、テレワークの拡大が大きな要因となっている。

日本全体ではエネルギー需要の1.8倍の再エネポテンシャルが存在しており、平塚市にも相当規模のポテンシャルがある。

平塚市は、「豊かな自然と地域資源」、「経済を支える産業」、「横浜・東京との適度な距離」など、良いポジションにある。このワークショップでは、「未来に残し、つないでいく」か「新しいモデルを創っていく」のか考えていきたい。

2. 情報提供

情報提供の主な内容は、次のとおり（配布資料：[別紙2](#)）

(1) 「平塚市の総合計画」

- ・「総合計画」とは、平塚市が持っている自然環境や歴史などの地域資源を生かしながら、財政状況なども踏まえ、将来、平塚市をどのようなまちにしていくのか、その大きな方向性をまとめた計画である。
- ・市はこの計画に基づき、自治基本条例第8条に定めた「市民が幸せに暮らすまち」の実現に向けて、様々な施策に取り組んでいる。

(2) 「将来の平塚市の人口予測」

- ・平塚市の将来人口も、今後は減少していくことが予測されている。
- ・グラフは4つの年代に分けており、2040年には人口の38.5%（約4割）が高齢者、20～64歳代の働く世代が現在の約78%（約8割）になると予測されている。

(3) 「平塚市の税金の使われ方」

- ・グラフは2021年度の一般会計の実績に基づいている。
- ・一番割合が多いのは「福祉」分野で、支出全体の4割を占めている。福祉に関する費用は、今後も増えていくことが予測されている。

(4) 令和4年度平塚市市民意識調査結果概要【速報】

- ・昨年協力していただいた市民意識調査結果を速報として説明した。
- ・平塚市への居住意向について、「住み続ける」又は「たぶん住み続ける」と回答した方は約9割（89.8%）であり、理由としては、「自然環境が良い」が5割を超える。一方、「移転する」又は「たぶん移転する」と回答した方は5.4%で、理由としては「仕

事や学校へ通うのに都合がよくない」が最も多い。

- ・平塚市のまちづくりに対する「重要度」と「満足度」を一覧にまとめており、重要度の中では「消防・救急の体制整備」、「日常生活の安心・安全」、「災害に強いまちづくり」などが上位を占める。

3 その他（自己紹介）

第2回以降に向けて、6つのグループに分かれて自己紹介を行った。

■当日の様子



基調講演の様子①



基調講演の様子②



自己紹介の様子①



自己紹介の様子②

総合計画市民ワークショップ
平塚市をとりまく状況～将来像に向けて

2023.1.28
大熊 寛
東海大学 政治経済学部 /
総合計画センター 研究員

内容

- 日本の状況
- 平塚市の状況
- 新しい潮流

日本の状況

経済の変化

経済成長率は低下してきている

- 1950年代～1960年代
高度経済成長
- 1970年代半ば～1980年代
石油ショック安定成長
- 1990年代～2000年代
バブル崩壊一低成長
- 2008年以降（世界経済）
リーマンショック
コロナ危機
→？

出所：社会実業データ総研

人口の変化

出生数・合計特殊出生率の動向

少子化が進行している

- 出生数：2020年には64万1千人（過去最低）
- 出生率：2020年には1.34

人口は2008年をピークに減少局面に

- 総人口：1億2,570万8千人（2020年10月1日）

出所：「まちのしごと創造基本方針2021」

人口構成の変化

人口・総人口に占める老年人口の割合の推移

高齢化が進み、老年人口の割合が増加している

- 65歳以上の人口：3,619万1千人
- 総人口の28.8%

出所：「まちのしごと創造基本方針2021」

地域的な偏在

2010年～2050年の人口の変化

- 人口が半分以下になる地点が居住地域の6割以上
- 人口規模が小さくなるにつれて減少率が高くなる傾向

平塚市は？

- 地方部より小輪だが、やはり減少
- 東京圏周辺という独自の位置

出所：国土交通省「国勢調査結果、国勢調査結果の解説と今後の見通し」

東京圏への集中

東京圏の年齢階級別転入超過数の推移

東京圏への転入超過は増加を続けてきた

- 2019年は約14万6千人

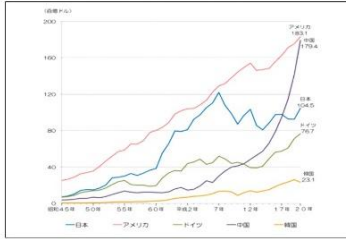
しかし、コロナ禍の中で大きく減少した

- 2021年は約8万人
- 大都市よりも地方を選択する新しい考え方？

出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（国勢調査報告）、「国勢調査報告」

産業の傾向：製造業

主要国の国内総生産における製造業の生産額の推移



製造業は日本経済・地域経済の中で大きな比重
しかし、2000年頃以降、成長は頭打ち

さらに、構造の変化も・自動車のev化?

(資料) National Accounts Main Accounts Database (United Nations Division) (2010年6月時点)に基づき作成。出所: 『デジタル田舎都市国家戦略基本方針』(2022)

産業の傾向：農業

農林水産物・食品の輸出額



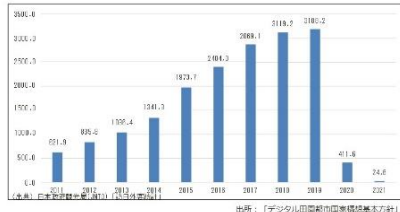
農林水産物・食品の輸出は増加
・8年連続で過去最高を更新

・新たな需要の増加?

(資料) 農林水産省「貿易統計」等に基づき農林水産物輸出額、少額集積額、「輸出統計」に収録されている額に基き、別に集積の経路を考慮。出所: 『8年連続で過去最高を更新』(2022)

産業の傾向：観光

年間訪日外国人旅行客数の推移 (単位: 万人)



年間 3,000万人を超えるインバウンド需要に支えられ、観光・宿泊業は大きく成長してきた

しかし、コロナ禍によりインバウンド需要は大きく後退
・訪日外国人旅行客数が2021年に99%減(2019年比)

・地域経済の重要産業だが、傾向に変化?

出所: 『デジタル田舎都市国家戦略基本方針』(2022)

長期的・構造的な変化



ビジョンの模索

国の計画や方針でも、さまざまな将来像が議論されている

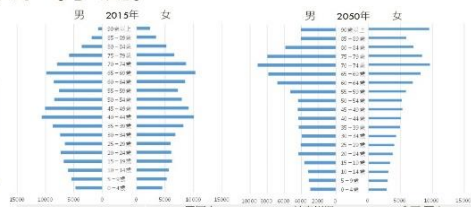
東京・関西・中国地方・中部地方 (2022)	デジタル田舎都市国家戦略 (2022)	成長戦略(成長戦略) 地域政策 (2022)
<ul style="list-style-type: none"> ・「リコーマン」転機への対応と地域の観光や人材交流の活性化 ・デジタル・地域活性化戦略の推進/成長を促すための施策の検討/実施 ・グリーン・地方創生に関する政策の推進/実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートシティ・スーパーシティ ・「デジタル」中核地域 ・デジタル未来都市 ・DX未来都市 ・観光未来都市 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業再生圏 ・農業用海プロジェクト ・投資等先行地域

平塚市の状況

人口構成 (予測)

2050年の予測

・総人口は約22%減少
・高齢化が一層進む



	2015年		2050年		2050年(22%)		2015年		2050年		2050年(22%)	
	2015	2050	2015	2050	2015	2050	2015	2050	2015	2050	2015	2050
総人口	258227	200409	77.6%	9124214	8171080	89.5%	12709	10300	81.0%			
年少人口 (0~14歳) 比	12.2%	9.1%	57.9%	12.5%	10.4%	74.4%	12.6%	10.3%	66.4%			
生産年齢人口 (15~64歳) 比	61.3%	47.2%	59.7%	62.9%	52.3%	74.4%	60.7%	50.9%	67.9%			
65歳以上人口比	25.7%	43.7%	131.7%	23.6%	37.3%	141.3%	26.6%	38.8%	118.2%			
75歳以上人口比	11.5%	26.3%	178.2%	10.8%	21.7%	180.4%	12.7%	13.7%	87.4%			

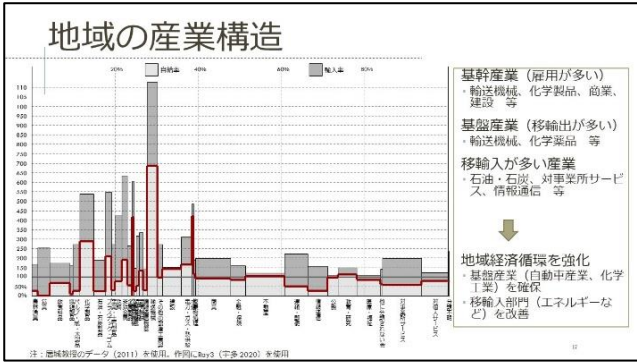
地域の経済循環の構造



(支出面)
域外の経常収支で1436億円流出している
・エネルギー代金で248億円流出している

(分配面)
・通勤により656億円稼いでいる
・本社等に対して669億円流出している

↓
地域の経済循環を拡大
・経常収支を改善(エネルギー)
・地域企業を強化



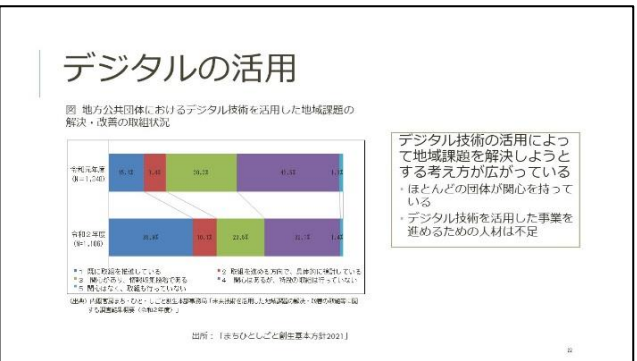
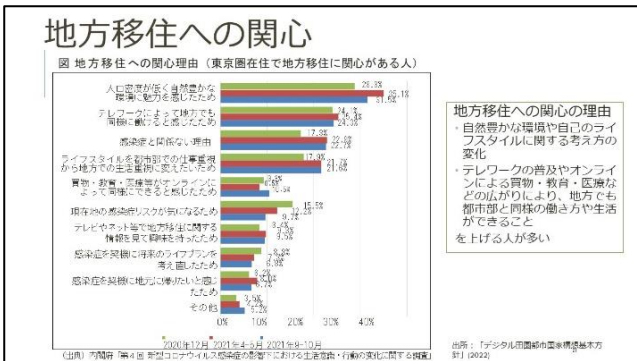
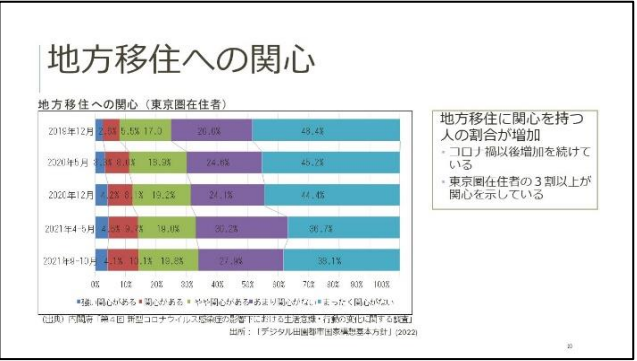
特徴ある産業

製造業
 ・自動車
 ・自動車部品など幅広い関連産業
 ・化学製品
 ・医薬品、幅広い化学製品

農業
 ・神奈川県の中で高い位置
 ・耕地面積3位 (横浜>三浦>平塚)
 ・稲作：面積・収穫1位
 ・野菜類：さやどり、トマト、いちじく等
 ・畜産：酪農：乳用牛2位、肉用牛・豚3位

その他
 ・観光・スポーツ関係、教育・研究

新しい潮流



テレワークの拡大

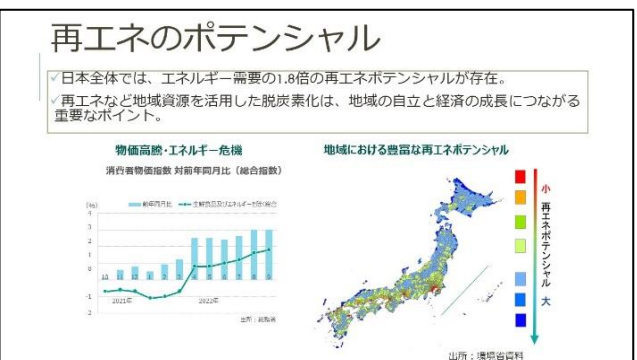
コロナを機にテレワークが広がった

デジタル×地方移住 => 地域振興
 ・地方創生政策として「地方創生テレワーク」も推進されている

遠方への移住だけでなく、ときどき運動する形態も

空き家等をサテライトオフィスに改修、企業に貸し出し (福島県 会津若松市)
 民間所有の施設を共用サテライトオフィスに整備、企業や個人等が利用 (北海道 北見市)

出所：内閣府「地方創生テレワーク交付金」関係資料



事例

災害発生時の停電におけるエネルギー供給（CHIBAむつざわエナジー）

- 町営住宅と道の駅等で構成される「むつざわスマートウェルネスタウン」で太陽光発電、太陽熱、ガスエンジン発電システムを導入。また国産天然ガスによるガスエンジン発電、排熱と地下水で温水を供給。
- 令和元年房総半島台風による強風も電線の地中化により町内全域大規模停電の影響を受けずエネルギー供給。温水シャワーやトイレを無料開放、防災拠点として大きな役割を果たす。

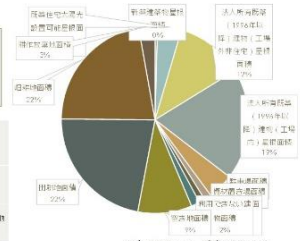


平塚市の再エネポテンシャル

- エネルギー自給率（製造業を除く）は約7%
- 相当規模のポテンシャルがある
- まずは太陽光発電
- 各種の空地、各種建築物の屋根、製造系太陽光発電（ソーラーシェアリング）の可能性

エネルギー自給 (民生+農林水産+輸送)	7.0%	削減分を自給で補填
太陽光最大設置 ケース	66.6%	削減分を自給で補填

人頭あたり発電可能容量の比較。総発電可能容量は11.9%、中核市最高は3.0%。そのほか屋根などは50%に本設地の設置を認める場合



農業の可能性



健康志向や環境意識が広がる中で、**地産地消**や**オーガニック**への需要が高まりつつある。

- 例えば
- 農家レストラン
 - 六次産業化

=>地域を支える産業として新しい可能性



必見！Kansai's Well-being Concepts 特別（検定中のみ）

テロワールは地域とKWCがつながるツールです。

地域に「土壌の味」を落とし、KWC独自のブランド創出。

Terroir

テロワール

丹沢からの水で繋がる

出所：自研（2022）『未来カルデア2050』

私たちの将来像に向けて

- 変化
- 経済の成長停滞
 - 人口減少・高齢化

- 新しいキーワード
- Well-being
 - サステナビリティ
 - ...

➡ 新しい「豊かさ」へ？

- 平塚市のポテンシャル
- ✓ 初代自治体と地域創成（森中川町）
 - ✓ 経済を支える産業（製造業や観光）
 - ✓ 横浜・東京との近接性

いりポジションにあるかも？

- ➡ 未来に残し、ついでにいく？
- ➡ 新しいモデルを創っていく？

➡

平塚市の総合計画は？

【総合計画とは】

総合計画は、平塚市自治基本条例第19条を策定根拠とする本市の最上位計画です。本市の市政運営を総合的、計画的に進めるための基本となる計画であり、市民と市が共通の理念をもち、まちづくりの推進を図っていくものです。

本市の各部門における様々な計画や施策は、本計画に基づいて実施され、自治基本条例第8条に定めた「市民が幸せに暮らすまち」の実現に向けて取り組むものです。

【現在の総合計画は】



計画策定の初期段階から多くの市民の参加・参画を得て、まちづくりのあり方や目指すべき姿を検討し、市民の視点に立った計画として策定。

- ・ 名称：平塚市総合計画～ひらつかNexT（ネクスト）～
- ・ 計画期間：8年（平成28年度～令和5年度）
改訂基本計画（令和2年度～令和5年度）
- ・ 構成：2層構成（基本計画、実施計画）

【総合計画による主な取組み】

○豊かな心と文化をはぐくむまちづくり

- ・ お互いを理解し、尊重し合える心のやさしさと、学びの意欲や豊かな感性をもった人が育ち、人々の活発な交流をとおして人の輪をつなげ広げていく、よろこびと活力にあふれたまちを目指します。

➡学校・社会教育、スポーツ、文化、国際交流、人権、平和など

○安心して暮らせる支え合いのまちづくり

- ・ 子育て支援や福祉の充実、防犯や防災の取組など、地域の人と人、そして行政が一体となって互いに支え合うことで、市民の誰もが生きがいをもって幸せに暮らせ、安全に安心して住み続けることのできるまちを目指します。

➡子育て、健康、福祉、地域コミュニティ、防犯・防災、消防・救急など

○自然と人が共生するまちづくり

- ・ 自然環境の保全や循環型社会の構築を進めるとともに、環境に配慮した快適な都市空間の整備を進めることにより、自然と人が共生した、持続可能な社会として発展するまちを目指します。

➡環境、下水道、道路・橋りょう、公園、交通（バス・自転車）など

○活力とにぎわいのあるまちづくり

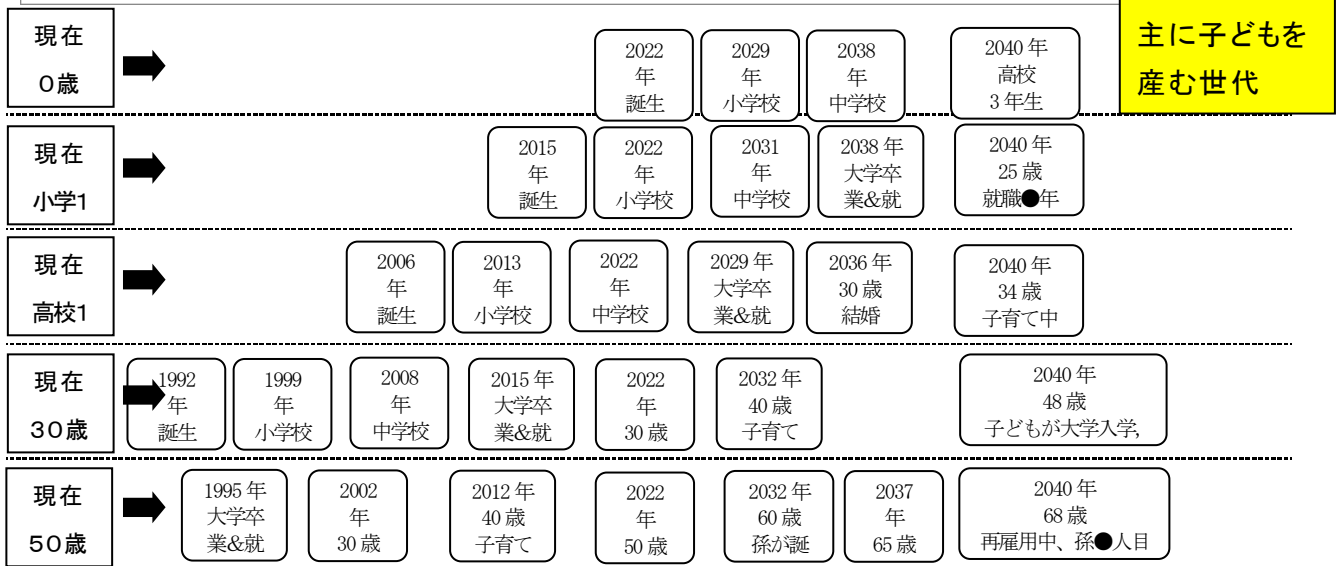
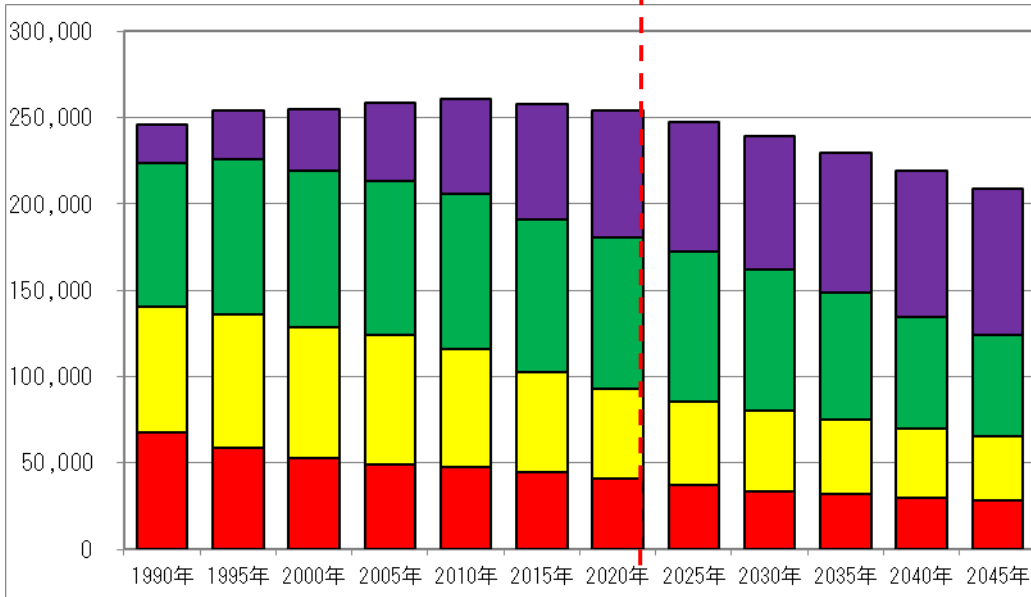
- ・ 平塚の特性を活かしながら、各産業のバランスのとれた振興を図るとともに、新しい産業の創出、多様な担い手の確保を目指すことにより、安定した魅力ある産業を培います。また、多彩な観光資源の魅力を高めるとともに、積極的に情報発信し、人が集まり活気があふれるまちを目指します。

➡農業・漁業、商業、工業、観光、雇用など



将来の平塚市の人口予測は？

←— これまでの —— —— これから先の推計



「将来人口予測」のグラフから、分かることは？

- 紫色の部分・・・65歳以上の高齢者
 - ・ 2040年になると、『人口の38.5%（約4割）は高齢者』になるとされています。（参考：2020年は、『28.9%（約3割）が高齢者』）
 - ・ 2020年と2040年（現在から17年後）を比べると、高齢者の人口は約115%になると予測されています。
- 黄色の部分・・・20～39歳の主に子どもを産む世代
 - ・ 子どもを産む女性の人口が減っていくと、生まれる子どもの数も減るだろうと、子ども全体の人口（赤色の部分）も減っていくと予測されています。
 - ・ 2020年と2040年（現在から17年後）を比べると、子どもの人口は72%（約7割）になると予測されています。
- 黄色と緑色を合計した部分・・・20～64歳の働く世代
 - ・ 2020年と2040年（現在から17年後）を比べると、働く人の人口は78%（約8割）になると予測されています。

平塚市の税金使われ方は？

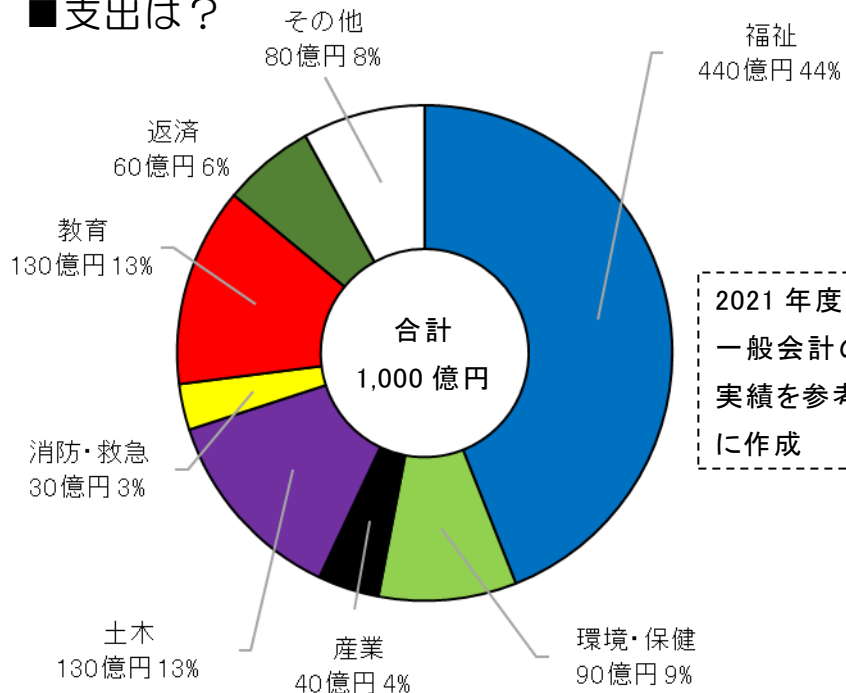
■収入は？

収入源には、

- 税金
- 施設などの使用料や証明書の手数料
- 国や県から
- 貯金から
- 市債（借入金）

などがあります。

■支出は？



順位	項目	主な使いみち
1位	福祉	(主に福祉のために使われます) お年寄り、障がいのある人、収入の少ない人などが安心して生活できるように助けます 保育所や学童保育を運営します
2位	土木	道路や橋、下水道の施設、公園(総合公園、地域の公園)を造ったり、直したりします
	教育	小学校、中学校で子どもたちが勉強などをするために必要なものを買ったり、校舎を直したりします 公民館やスポーツ施設(体育館、競技場)、図書館、博物館、美術館
4位	環境・保健	ごみの処理(燃やす、埋める)、ごみを処理する施設 再生可能エネルギーの利用を広める(カーボンニュートラル) 予防接種、赤ちゃんや子どもの健康診断、大人のがん検診 平塚市民病院への補助
5位	返済	過去に道路や橋、公園、建物(施設)を造るなど、たくさんのお金が必要なことをするために借りたお金を返します
6位	産業	平塚市にある農業、商業、工業、水産業、観光で働く人たちと協力して、産業が盛んになるようにします 七夕まつりや花火大会などを開きます
7位	消防・救急	火事や救急活動に必要なものを買ったり、 消防署の建物を整備します
—	その他	市議会の運営、防犯や防災対策、避難所の備蓄品を買う、選挙の実施 市役所で使うタブレット端末

令和4年度平塚市市民意識調査結果概要【速報】

■【1】あなたの今後における平塚市への居留意向などについて（問1）～（問4）

【居留意向は約9割。住み続けたい理由は引き続き「温暖な気候や自然環境」が上位】

居留意向について

『今後の平塚市への居留意向』については、89.8%（前回調査 86.5%）の方が「住み続ける」又は「たぶん住み続ける」と回答しました。住み続けようと思う理由としては「温暖な気候で、海、山、川に囲まれ、自然環境が良い」が5割を超えており、調査を開始した平成25年度から引き続き、平塚市への居留意向につながる大きな要素となっています。

また、住み続けようと思う理由として、前回調査から最も増加した項目は、「買い物しやすい」で4.4ポイントの増加となりました。

移転意向について

一方、「移転する」又は「たぶん移転する」と回答した移転意向のある方は5.4%でした。その理由としては「仕事や学校へ通うのに都合が良くない」が最も多く、調査を開始した平成25年度から引き続き、移転意向の要因となっています。

また、前回調査から「買い物しにくい」との理由が5.2ポイント増加しています。居留意向でも「買い物しやすい」が最も増加しており、「買い物のしやすさ」に対する関心が高くなっていると考えられます。

魅力や誇りについて

居留意向とは別に、『平塚市の魅力や誇りに感じることを伺ったところ、「総合公園などの施設の充実した大きな規模の公園」が43.0%と平成25年度調査から引き続き高い結果となりました。2位の「災害や犯罪が少なく、安心して生活できる環境」は、前回調査の4位から上昇するとともに、回答率の4.3ポイントの増加は、本設問の中で最も増加した項目となっています。

■【2】生活の満足感（問5）～（問8）

【現在の生活に満足している方は7割以上】

生活の満足度について

『生活の満足度』については、「満足している」又は「まあ満足している」と回答した方が、73.3%で、前回調査から2.2ポイント増加しました。この割合は、70代以上が最も高くなっています。

「やや不満である」又は「不満である」と回答した方の割合は、30代が最も高く、次いで20代となっています。

社会とのつながりについて

『交友関係やコミュニティなど社会とのつながり』を伺ったところ、「満足している」又は「まあ満足している」と回答した割合は61.2%でした。この割合が10代では8割を超えています。

「やや不満である」又は「不満である」と回答した方の割合は、30代が最も高く、次いで40代となっています。

■【3】まちづくりの状況について（問9）

「平塚市総合計画～ひらつかネクスト～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して、市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握するため、分野別施策・重点施策ごとに分類して伺っています。

項目	重要	重要ではない	満足	不満足
1 子どもの学びの充実（学力の向上、豊かな心の育成など）	78.9%	2.6%	16.5%	9.6%
2 教育環境の充実（学校施設の安全対策、相談体制など）	76.9%	2.0%	15.7%	10.3%
3 生涯学習や芸術・文化活動を行う環境の充実	53.7%	4.3%	14.4%	8.3%
4 スポーツを楽しむ（する・観る）環境の充実	56.5%	4.4%	28.9%	6.6%
5 青少年が健全に成長する環境	76.3%	1.7%	12.8%	11.0%
6 友好・姉妹都市、企業及び大学等との交流の促進	37.7%	9.9%	8.6%	8.0%
7 男女共同参画や人権擁護など、自由で平等な地域社会の推進	61.3%	3.5%	9.8%	10.3%
8 子育て支援（保育や母子保健事業など）の充実	79.0%	2.0%	23.2%	9.0%
9 健康づくり（各種健診や保健指導など）の推進	77.4%	0.9%	28.0%	6.8%
10 地域ぐるみでの支え合いによる福祉活動	62.7%	3.7%	13.9%	8.2%
11 高齢者福祉の推進 （健康長寿への取組や介護保険サービスの充実など）	73.8%	3.5%	16.2%	9.4%
12 障がい者福祉の推進 （障がいのある人の自立や社会参加の支援など）	72.8%	1.8%	14.8%	8.0%
13 コミュニティ活動の促進 （自治会、ボランティア、市民活動への支援など）	46.4%	6.7%	13.3%	7.1%
14 防災対策（防災訓練の実施や防災意識の啓発など）	78.3%	1.4%	17.6%	9.3%
15 災害に強いまちづくり （インフラ施設や建築物の耐震化など）	84.4%	1.3%	13.5%	14.7%
16 日常生活の安心・安全 （防犯、交通安全対策、消費者被害の防止など）	84.5%	0.4%	16.0%	13.5%
17 消防・救急の体制整備	85.4%	0.1%	32.0%	5.0%
18 環境にやさしいまちづくり （大気や水質の汚染対策、地球温暖化対策など）	82.5%	0.9%	17.3%	9.8%
19 自然環境（海・川・丘陵地や里山の緑など）の保全	80.8%	1.2%	21.9%	11.4%
20 循環型社会の形成（ごみの減量化や資源化の促進など）	80.6%	1.0%	21.8%	11.4%
21 快適な生活環境の形成 （バリアフリー化や放置自転車対策など）	73.7%	1.5%	17.1%	13.6%
22 花やみどりのあるまちづくり （公園・緑地の整備、緑化活動への支援など）	65.4%	2.7%	31.5%	8.0%
23 交通の利便性の向上 （市内外への移動におけるバス・鉄道・幹線道路・橋など）	80.1%	0.7%	25.4%	21.1%
24 産業の活性化 （新しい産業育成、起業家や後継者への支援など）	66.4%	3.6%	7.8%	15.8%
25 商業の活性化と中心市街地のにぎわいづくり	69.3%	3.5%	9.1%	29.0%
26 工業の振興（企業の研究開発や施設整備の支援など）	58.4%	3.6%	7.5%	13.8%
27 農業の振興 （担い手確保の支援、生産者と消費者の交流活動など）	69.1%	2.6%	9.8%	17.0%
28 漁業の振興 （体験漁業や市場見学等の支援、経営安定に向けた支援など）	63.2%	2.8%	8.6%	13.7%
29 観光の振興（観光資源の魅力アップや情報発信など）	55.8%	7.0%	9.5%	17.1%
30 雇用の確保と働きやすい環境づくり	77.8%	1.3%	7.2%	19.3%

3 第2回市民ワークショップ

(1) 実施概要

■開催日時、場所

日時：令和5年2月5日（日） 9時～12時

場所：平塚市役所本館3階302会議室

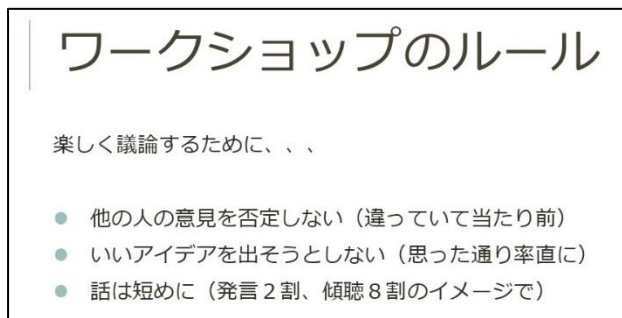
■参加者

25人（男性10人、女性15人）

■当日プログラム

1. ワークショップ（ファシリテーター：大熊 一寛 教授）

作業1：前回の振り返り、本日の進め方、ワークショップのルールの説明



（東海大学政治経済学部経済学科 大熊一寛教授 作成スライドから抜粋）

作業2：「ひらつかの好きなおところ、あまり好きではないところ」を挙げましょう。

- ・各自で考えてきた内容のうち、各自3点まで付箋に書き、グループ内で発表しながら模造紙に貼る。
- ・その後、共通する意見、気づいたことや追加したいことなどについて、整理、分類しながら意見交換する。

作業3：「将来どうなってほしいか」考えてみましょう。

- ・「将来どうなってほしいか」、各自3～5枚ずつ付箋に書き、グループ内で発表しながら模造紙に分類して貼る。
- ・その後、近い内容を集めて分類して、分類したグループごとに見出しを付けて整理する。
- ・さらに、各グループから発表を行い、参加者全員で意見を共有する。

作業4：次回に向けて、グループ分けをしましょう。

- ・次回取組を考える上で、グループを「社会」と「経済」に分けるために参加者ごとに希望を調査する。

2. 事務連絡

(2) 実施結果

1. 「ひらつかの好きなおところ、あまり好きではないところ」を挙げましょう。

・各グループのとりまとめ結果は、別紙3のとおり

※ **好きなおところ** は、青色かつ実線で囲んでいる。

※ **あまり好きではないところ** は、オレンジ色かつ破線で囲んでいる。

2. 「将来どうなっていてほしいか」考えてみましょう。

・各グループのとりまとめ結果は、別紙4のとおり

■当日の様子



概要説明



グループワーク①



グループワーク②



グループワーク③



グループワークの発表①



グループワークの発表②

■ひらつかの好きなおところ・あまり好きではないところ

【A班】

自然が多く遊べる	海がある	近隣の駅に比べて駅付近がチープ？	図書館が暗い
生まれてから亡くなるまで満たされている	スポーツ施設、総合公園があつて良い	駅前の商店街(まちづくり)	地下道
自然環境、公園(坂が少ない)	総合公園がある	小学生の修学旅行	平塚球場の収容人数が少ない
富士山が見える	スポーツ選手と触れ合える	平塚と言えば！というお土産がない	
天候が良い	朝、電車に座れる		
道路が広い			
平坦なおところ			

■ひらつかの好きなおところ・あまり好きではないところ

【B班】

ゴミの分別ルールが厳しくない

子育て（福祉）

水道代が安い

自治会費がお手頃

ごみ袋が無料

大型ごみが処分しやすい

住民税がお手頃

農業分野で県内上位である

漁港の近くで漁業を盛り上げる施設が必要

会社、工場が少ない

市役所がキレイ

図書館の本の返却が駅ポストに投函できる

美術館や文化芸術ホールが充実

総合公園をより魅力的に

事件事故の報道が目立つ

道路が混みやすい

自転車が多く、マナーが悪い

交通面で人への優しさが必要

■ひらつかの好きどころ・あまり好きではないところ

【C班】

市外に出るのも
便利

電車が必ず
止まる

気候が温暖

海のもものが
おいしい

物価が安い

ゴミ袋が無料

買い物に
困らない

平塚から出なく
ても事足りる

市民病院への
交通の便が悪い

公共施設の
駐車場が有料

七夕の縮小

地味

渋滞

■ひらつかの好きなおところ・あまり好きではないところ

【D班】

子育て環境が整っている	文化施設が充実	平塚八幡宮	魅力的なイベントが多い
平塚駅からの通勤・通学が楽	都会と田舎が同居している	市民が穏やかで優しい	自然、交通などすべてが程良い
		人口が多すぎず少なすぎず過ごしやすい	大神地区が駅から遠く疎外感がある
ショッピングモールが複数ある	駅前商店街でのレシートを使ったキャンペーン	スターライトポイント	農業が盛ん
		駅前商店街に魅力がない	スターライトポイントが使いにくい
ネットで告知する力が少し弱い	観光協会が駅から遠い	市外に遊びに行ってしまう	防災無線が聞きづらい

■ひらつかの好きなところ・あまり好きではないところ

【E班】

七夕まつり	よさこい祭り	文化施設 (文化芸術ホール美術館など)	図書館に癒しが必要
		ミニシアターがない	コミュニティの力が弱っている
自然環境 (海、山、 気候)	海、山がある	自然に恵まれ、 人が優しい	景色
時間がゆっくり で人が優しい			
商店街の 元気がない	駅前周辺	公園で遊べない	治安イメージが悪い
		保守的	アピール力が弱い

■ひらつかの好きなおところ・あまり好きではないところ

【F班】

道路が平坦で 自転車移動が楽	交通の便が良い	交通インフラが 整っていない	神奈川大学方面 のバスが少ない
自転車の利用が 多い	車の渋滞が 少ない		
公共施設の充実	駅の近くに様々 な施設がある	美術館がある	24時間営業の スーパーが充実
駅前商店街	スーパーが 少ない	自然が 溢れている	平塚八景
子育て支援が 充実	支援学校が多い	小学校の 修学旅行がない	中学校給食が ない
大学への進学率 が低い		魅力的なイベン ト（七夕、囲碁 の千面打ち）	イベントに 消極的
物価が安い	野菜が安い	高齢者が働ける 場所が少ない	治安が悪い
農業などの 就職基盤	高齢者が働ける 場所が少ない		

■将来どうなっていきたいか

【A班】

賑やかなまち
いきいきしたまち
⇒元気・活気のある街

市民が誇れるまち

文化施設を
利用して人を
呼び寄せる

美術館・博物館
文化芸術ホール

観光客に優しい
まち

色々な場所へ
気楽に出かけら
れる

子育て世代を呼び込めるまち
子育て世代も高齢者もコミュニケーションできる

生活全般が完結
できるまち
(買い物)

駅前商店街を
再開発して
活気があるまち

飲食店が活性化
しているまち

駅前の保育園バ
スで送迎できる

人や世代が常に
循環するまち

電気・水道・
ガス代が
安定している

安心して子育て
できるまち

治安の良いまち

■将来どうなってほしいか

【B班】

人と自然の調和のまち
～住んでいる人も、住んでいない人も
知って！住んで！平塚～

人口アップ

人口の微増
(減少なし)

人口流入のため
住民、行政、企
業が一丸となり
営業マンに

DXを活用

観光の振興

ふるさと納税の
充実

中小・個人商店
の活躍

実は

そのままでも
良い

子育て・教育

子どもが安心して
暮らせる

子育てしやすい
環境

低コストに生活
が送れる

安心・安全

安心安全なまち

自給率のアップ

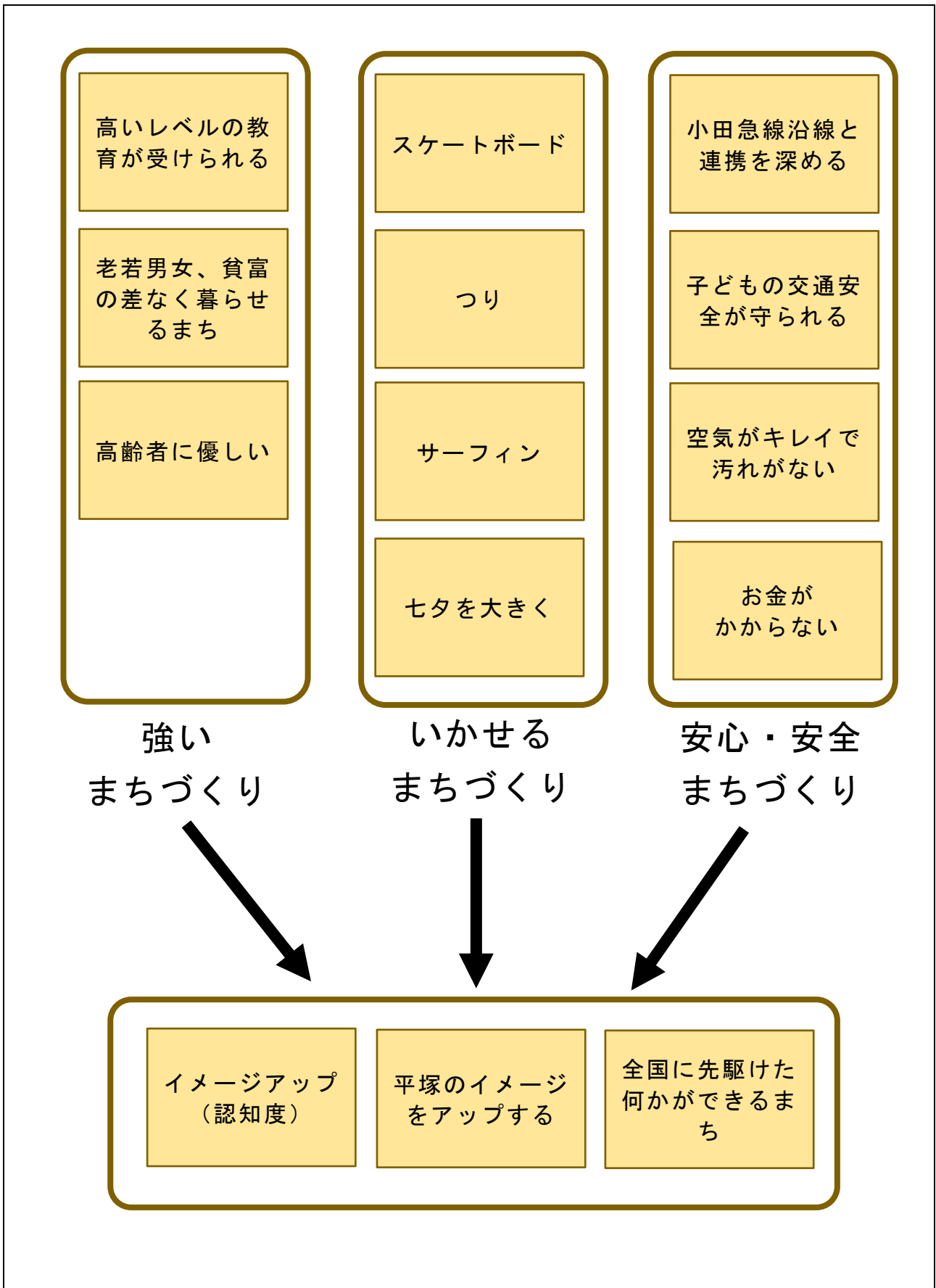
自転車の事故が
減っている

環境との調和

駅前の駐車場が
増えている

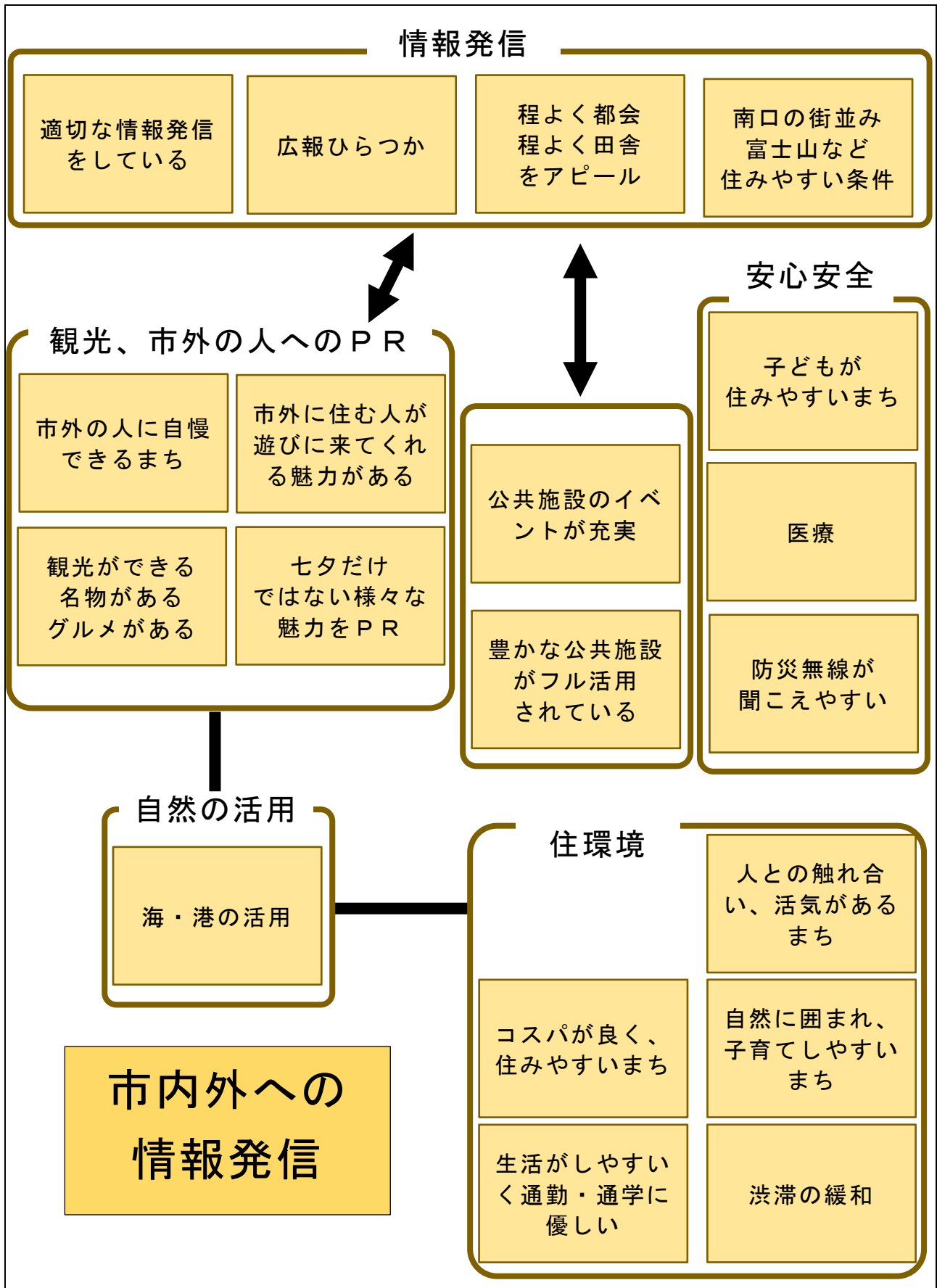
■将来どうなってほしいか

【C班】



■将来どうなってほしいか

【D班】



■将来どうなっていきたいか

【E班】

発信力のある まち

しごとと生活
どちらも充実

安心して働け
る・子育てでき
るまち

魅力的な企業が
あるまち

自然を活かした
イベントや施設
が魅力的なまち

自然・SDGs
大切に

観光で人々が
集まるまち

ベルマーレ

手をつなげる まち

市民が笑顔でい
られるまち

世代間交流が
活発な街

若者・子ども・
お年寄りの住み
やすいまち

教育と地域の
つながり

考え・学べる
まち

声を聞き細かい
政策
コミュニケーション

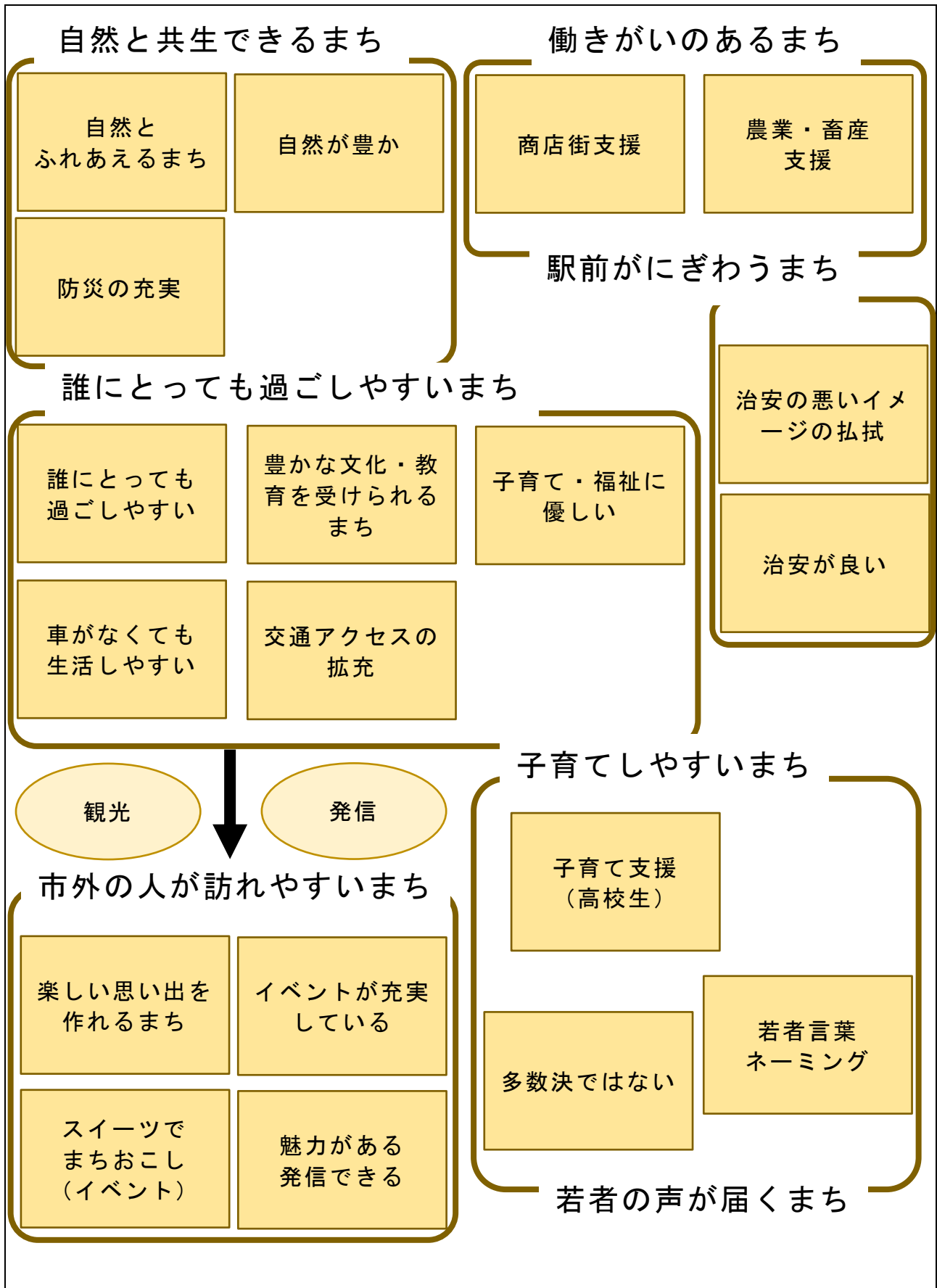
居場所がある
まち

子どもを
よく見る

子どもが子ども
らしく遊べる場
所がたくさんあ
る

■将来どうなってほしいか

【F班】



4 第3回市民ワークショップ

(1) 実施概要

■開催日時、場所

日時：令和5年2月12日（日） 9時～12時

場所：平塚市役所本館3階302会議室

■参加者

26人（男性10人、女性16人）

■当日プログラム

- ・第3回ワークショップでは、現在ではなく未来（10年後、20年後）、自分ではない大切な人（家族や友人）といった視点を持ってグループワークを実施する。
- ※第2回ワークショップで、グループを「社会」と「経済」に分けるためのアンケートを実施したところ、各グループの「社会」と「経済」の希望者が半々だった。また、各グループが和気あいあいとした雰囲気であり、議論をより深めるためには、これまでのグループ編成を継続する方が良いと判断し、グループは再編しなかった。

1. ワークショップ（ファシリテーター：大熊 一寛 教授）

作業1：前回の振り返り、本日の進め方の説明

作業2：「10年後、20年後にどんなひらつかを残したいか」考えてみよう。

10年後、20年後にどんなひらつかを残したい？

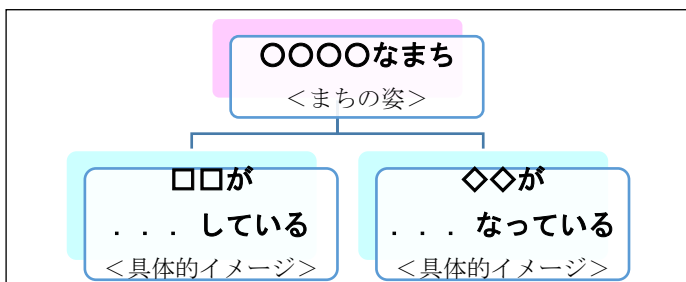
- ・ まちの姿：○○なまち
- ・ 具体的なイメージ：誰がどうしている？何がどうなっている？

✓長期的なイメージを持つために、例えば

- 次の世代、若い人の声
- 自分ではない大切な人（家族や友人たち）
- 子どもたちが社会に出たとき

（東海大学政治経済学部経済学科 大熊一寛教授 作成スライドから抜粋）

- ・ 「まちの姿」と「その具体的なイメージ」を、各自で挙げる。その際に「まちの姿」を2つ程度、それぞれの「まちの姿」に対する「具体的なイメージ」を2つ程度考える。



（東海大学政治経済学部経済学科 大熊一寛教授 作成スライドから抜粋）

- ・ 各自で考えた内容を付箋に書き、模造紙に貼りながら説明する。

作業3：2～3項目のまちの姿とその具体的イメージをまとめてみよう。

- ・作業2で発表された内容をまとめたり、追加したりできるか考え分類する。
- ・グループで推す2～3項目のまちの姿を考える。
- ・さらに、各グループから発表を行い、参加者全員で意見を共有する。

2. 事務連絡

(2) 実施結果

「10年後、20年後にどんなひらつかを残したいか」考えてみよう。

- ・各グループのとりまとめ結果は、別紙5のとおり

■当日の様子



概要説明



グループワーク①



グループワーク②



グループワーク③



グループワークの発表①



グループワークの発表②

■10年後、20年後にどんなひらつかを残したいか

【A班】

年代を問わずコミュニケーションが 活発に行われている

●平塚市を語れるまち

- ・小中学生が平塚市のことを好きになっている
- ・市民の皆さんが定期的に平塚市に関して話し合うことができている
- ・話し合った内容が反映、共有されている

子育て環境が充実したまち

出産・育児の
支援制度が
充実している

子どもが
自然を感じて
生活ができる

生まれてから
亡くなるまでの
施設が整ってい
る

市民が安心を感じて暮らせるまち

防犯面が
心配なく
暮らせる

防災対策が
充実している

デジタル
(インターネット)
環境が十分に
活用されている

多くの人が訪れるまち

駅前が魅力にな
っている

飲食店が活性化
している

文化施設などの
イベントの
参加者が多い

生活の全てが
市内で
完結している

情報発信が
しつかりでき
ている

■10年後、20年後にどんなひらつかを残したいか

【B班】

人と自然が持続可能なまちへ（人口微増）

命と生き方（人生）を大切にしているまち

子育てしやすいまち

子どもが安心して暮らせるまち

子育て家庭の負担が減っていくまち

- ・一人の人生を切れ目なく自助、共助、公助でサポート
- ・学童保育が充実する
- ・中学校までの給食費をなくす
- ・確かな教育を受けられる
- ・自然と共に
- ・子どもの穏やかで心豊かな人格形成
- ・平塚で育った子を平塚で自立した大人に
- ・田植え、収穫体験の実施
- ・公民館に寺子屋の設置

移動しやすいまち（安心、安全に移動できる）

- ・南北の交通網の改善
- ・幹線道路以外の歩道、自転車道などの確保
- ・横断歩道で車が止まるまち
- ・交通事故を減らす（自転車事故）
- ・交通環境（安全、利便性）、治安防災が良く、安心安全に過ごさせている

平塚が平塚を潤しているまち

自然に優しいまち

- ・食とエネルギーの自給自足が高まるシステムが構築、更新されている
- ・エネルギーの産出、再利用
- ・ゴミのリサイクル

経済面での平塚のイメージづくり

- ・自然を活かした農産物
- ・再生可能エネルギー（太陽光、波）
- ・エネルギーの地産地消、
- ・エネルギーの自給率が高い

低コストで暮らしていける、老後資金が貯蓄できるまち

- ・自転車ヘルメットの補助

就職できるまち

- ・畜産物のブランド化
- ・観光資源が充実し、周辺観光での宿泊地で充実
- ・漁港の駅
- ・駅前商店の充実
- ・働き口がある
- ・中小企業の誘致や補助
- ・商店の補助

生活の安定、経済の活性化

- ・企業とまちづくりが共存（両立）している
- ・大企業と中小企業が市民とつながり潤いを作り出している

■10年後、20年後にどんなひらつかを残したいか

【C班】

生活の全てがまかなえるまち

企業が誘致され地元に多くある

- ・ 法人のサポートを拡大する
- ・ 商業を拡大する

貧富の差なく高齢者を誰一人取りこぼさない

- ・ 税込以外の収集確保
- ・ 仕事と趣味が市内で完結する

豊かな生活ができるまち

防災に強い

- ・ 市と企業（施設）が連携して助けを求める場所がある
- ・ 通勤に時間がかからず、趣味などの時間が生まれる。
生活に余裕がある。

共通

- ・ 18歳まで福祉が無料
- ・ 老人のかなちゃん手形の補助
- ・ 人と人が触れ合えるイベントの活性化
- ・ コミュニティバスの充実
- ・ 市の中心地と市の境との交通費補助

- ・ 市と企業が連携して「全国モデルとなる事業をしている」「趣味の施設が充実している」
- ・ 多くの人口が流入し経済的に豊かになる
- ・ 健全なまち
- ・ 市と市民がいきいきできるまち
- ・ 夜の産業の整理

■10年後、20年後にどんなひらつかを残したいか

【D班】

市民がお互いに助け合い協力するまち

市民がお互いに助け合い協力するまち

- ・妊婦、子育て中の親、高齢者が気軽に会話できる
- ・年齢や性別に関係なく気軽に会話できたり、相談ができる場所や機会がある
- ・クラウドファンディングが活用されている
- ・市民が積極的に参加している
- ・外国語を使って外国の人と話す機会がある

楽しむことで心が豊かになる魅力あふれるまち

楽しむことで心が豊かになる魅力あふれるまち

平塚市の人でも平塚市外の人でも平塚を活用するまち

- ・市や市民がイベントを開催する
- ・いろいろなイベントが行われており、その情報が発信されている
- ・公民館が活用されている
- ・豊かな文化施設や総合公園等の活用がされている
- ・新たな名所が増え、商業施設や交通網を活かす
- ・施設・団体が連携して魅力アップしている
- ・道の駅で地元の農産物等が売られている
- ・七夕などの文化が継承されている
- ・市外の人を呼び込める交通

市の情報が市内外へ伝わり活性化しているまち

- ・あらゆる世代に合わせた情報伝達手段（SNS、広報、自治体等）
- ・駅やバスなど人が集まるところに情報が集まっている
- ・文字だけではなく、写真や映像から人の目を引く発信
- ・どんな人が何に興味を持っているか伝えに来てもらうイベントづくり
- ・情報が人から人へ伝わっている
- ・情報が一方通行ではなく、相互に受発信されている
- ・新鮮な情報がもれなく伝わる仕組みがある
- ・市の文化や歴史を知る教育がされている
- ・情報を受け取り、発信する手段を学校で学ぶことができる

■10年後、20年後にどんなひらつかを残したいか

【E班】

チャレンジのまち

- チャレンジがしやすいまち、誰もがチャレンジできるまち
 - ・チャレンジを応援
- アグレッシブな、又はバズる街
 - ・市、市民、企業が街の発信していく
 - ・市民、企業、市が将来を考える、行動する
- 全市民が一定の生活水準であるまち
 - ・全市民がベーシックインカム需給

異世代で助け合えるまち、異世代の集まれる機会

- ① 子どもが言葉を育てるまち
 - ・子育てがしやすい
 - ・子育てに余裕がある
 - ・誰もが学ぶチャンスがある
- ② 高齢者がいきいき暮らせるまち
 - ・社会人、子ども、みんなが勉強
 - ・人と人とのコミュニケーションが活発
 - ・地域の大人が子どもをよく見る環境を作る
 - ・助け合えるまち
 - ・コミュニケーションの図れる場、機会が増える
 - ・異文化も受け入れる
 - ・必要な情報が必要な時に手に入る

自然に癒されるまち

- ・いつでも自然と触れ合える
- ・平塚で育った人が帰ってきてホッとする
- ・誰もが自然を大切にしている気持ちを持っている
- ・海、山、川などスポーツやレジャーが盛んに行われている

平塚と言えば！の産業があるまち ～脱ベッドタウン～

- ① 老舗企業がチャレンジしている
- ② 新しい企業と市民が応援している
- ③ 商店街の活性化、元気な事を発信
 - ・将来性のある企業がたくさん本社を置いている
 - ・若者が是非平塚で働きたいと思っている
 - ・農業も活発
 - ・魅力あるお店がいっぱいある

■10年後、20年後にどんなひらつかを残したいか

【F班】

いっぱい人が集まれるまち

コロナ後を見据えて

ナチュラルを感じられるまち

①自然が豊かなまち

- ・人が平塚の里山の魅力を知っている。
- ・市民が自然の大切さを知っている

②自然と人が調和しているまち

- ・自然や文化と触れ合えるスポットが活性化している

自然と賑わいが両立するまち

①移動が便利なまちになっている

②駅前が賑やかなまち

③駅周辺に遊び場が増え、
学校帰りに学生が遊びに来る

④老若男女が安心して楽しく住めるまち

- ・「どこでもドア」がなくても移動が便利な街
- ・人が商店街を利用している
- ・休日にたくさんの人が遊びに来る
- ・人が駅前を歩きたいと思える
- ・地元を発展させる企業がたくさんある
- ・高齢者や障がいのある人も働きやすい
- ・お家を買える街

⑤いつまでも学べる街になっている

- ・学生と市が関わりを持っている
- ・学習施設がある
- ・生活を学ぶ、暮らしを学ぶ
- ・身近に図書館がある

魅力を再発見できるまち
”古いけど新しい”

①目で見て楽しめる食べて楽しめる

②魅力がある街

- ・イベントがある

③国内外に魅力を発信できる・する

- ・SNS、LINE、インスタ、Youtubeを活用
- ・市民が魅力を発信している
- ・臨機応変に、みんなに分かりやすい
- ・文字ではなく写真で楽しい雰囲気のHP
- ・広報に見るしかけがある
- ・学生のアイデアを取り入れる ←

④農産物のおいしい物が気軽に買える、食べられる

- ・安心安全な食べ物があるまち

⑥防犯・防災のまち

⑦たくさんの幅広い世代が繋がれる姿

- ・小さなコミュニティがたくさんできている
- ・子どもが自治会、子供会が何をしているか分かる
- ・会社員、共働き前提だと良い
- ・自治会、子ども会の情報発信

⑧子どもたちが公園で目いっぱい遊んでいる

- ・子どもを見守る人や施設がある
- ・子どもがたくさん思い出を作っている
- ・子どもたちが社会に興味を持っている
- ・赤ちゃんがニコニコしながらママとお散歩できるまち

5 第4回市民ワークショップ

(1) 実施概要

■開催日時、場所

日時：令和5年2月25日（土） 9時～12時

場所：平塚市役所本館3階302会議室

■参加者

25人（男性10人、女性15人）

■当日プログラム

1. ワークショップ（ファシリテーター：大熊 一寛 教授）

作業1：前回の振り返り、本日の進め方の説明

作業2：これまでのワークショップについて振り返ってみよう。

- ・第3回市民ワークショップで、参加者から出た「10年、20年後に残したいまちの姿」を整理した、とりまとめ案（別紙6）について、各グループで表現や付け加えたい点、気付いた点などを意見交換する。
- ・各グループの意見を発表し、参加者全員で意見を共有する。

作業3：最終とりまとめ案について、参加者全員で考えよう。

- ・大熊教授と事務局で各グループの意見を1枚の修正案に反映する。
- ・全員で意見交換を行い、全体として意見を整理し、完成させる。

2. 記念撮影

3. 閉会

(2) 実施結果

1. これまでのワークショップについて振り返ってみよう。

- ・「10年、20年後に残したいまちの姿」のとりまとめ案（別紙6）に対する、各グループから発表された意見は、別紙7のとおり

2. 最終とりまとめ案について、参加者全員で考えよう。

- ・各グループから発表された意見を修正案に反映した後、大熊教授を含めた参加者全員で意見交換し、完成版にまとめた。参加者全員でまとめた完成版は、別紙8のとおり

■当日の様子



概要説明



グループワーク①



グループワーク②



グループワークの発表①



グループワークの発表②



全員で意見交換①



全員で意見交換②



全員で記念撮影

①帰ってきたときにホッとするまち [E]

- ・海、山、川を活かしてスポーツ、レジャーなどの趣味が実現できている [E+C]
- ・年齢や性別に関係なく話ができる居場所がある [D]
- ・赤ちゃんがニコニコしながら散歩できている [F]
- ・子どもがたくさん思い出を作っている [F]
- ・いつでも自然と触れ合うことができる [E]

⑦心豊かな生活ができるまち [C改]

- ・通勤に時間がかからず、趣味などに使える時間が持っている [C改]
- ・市の文化や歴史を知る教育がされている [D]
- ・海、山、川を活かしてスポーツ、レジャーなどの趣味が実現できている [E+C]
- ・コスパが良く、庭付き一戸建てを買うことができる [DF2 回目 WS]
- ・文化施設や総合公園、公民館等がフル活用されている [D2 回目含む]

⑥全員参加のコミュニケーションが活発なまち [D改]

- ・世代に合わせた伝達手段を使って、必要な情報が必要な時に手に入る [DE]
- ・新鮮な情報が人から人へ伝わっている [D]
- ・市、市民、企業がまちの魅力を発信している [E改]
- ・話し合った内容がまちづくりに反映、共有されている [A改]
- ・小中学生が平塚市のことを好きになっている [A]

②平塚が平塚を潤しているまち [B]

- ・新しい企業が創業し、老舗企業もチャレンジしている [E]
- ・地元を発展させる企業がたくさんあり [F]、若者が平塚で働きたいと思っている [E]
- ・若者、子育て世代、高齢者、障がい者など、誰もが働く機会がある [EF]
- ・仕事と趣味が市内で完結している [C]
- ・食と再生可能エネルギーを自給自足している [B]

【タイトル】10年後、20年後につなげる私たちのひらつか
“みんなで挑戦 [E]、助け合おう [DE]”

⑤いのちを大切に、安心・安全に暮らせるまち [B+A]

- ・防災対策が充実している [A]
- ・防犯対策が充実しており、治安が良い [AB]
- ・子どもや高齢者の交通事故が減っている [B改]
- ・交通網や交通手段が改善され、「どこでもドア」がなくても便利に移動できている [B+C+F]
- ・誰にとっても過ごしやすいバリアフリーが実現されている [F改 2 回目 WS]

③自然と賑わいが両立するまち [F]

- ・誰もが自然を大切にする気持ちを持っている [E]
- ・海、山、川を活かしてスポーツ、レジャーなどの趣味が実現できている [E+C]
- ・活気ある商店街が、自ら魅力を発信してバズっている [E]
- ・七夕などの文化が継承されている [D]
- ・目で見えて楽しめる、食べて楽しめるお店がある

④お互いを認め合い、誰一人取り残さないまち [B+E]

- ・人生を切れ目なく自助、共助、公助でサポートできている [B]
- ・社会人、子ども、みんながいつまでも学ぶチャンスがある [E+F]
- ・市民、企業、市が将来を考えて行動している [E]
- ・地域の大人が子どもの面倒をみて、子育てに余裕ができている [E改]
- ・異文化を受入れて [E]、外国語を使って外国の人と話している [D]

とりまとめ案（別紙 6）に対する意見

【A班】

<タイトル>

- ・「10年後、20年後」を「未来」に変更
- ・「みんなで挑戦」を「みんなでトライ」に変更

<まちの姿1>

- ・「帰ってきたときに」を「いつでも」に変更

<まちの姿3>

- ・「駅周辺が活気づき、市外の人が多く訪れている」を追加
- ・「様々な情報が発信され、多くの人々が平塚市を訪れている」を追加

<まちの姿4>

- ・「お互いを認め合い、誰一人取り残さないまち」から「誰一人取り残さない」を削除

<まちの姿6>

- ・「全員参加のコミュニケーションが活発なまち」から「全員参加の」を削除

【B班】

<タイトル>

- ・「みんなで挑戦、助け合おう」を「みんなで挑戦しよう、みんなで助け合おう」又は「みんなが挑戦、みんなで助け合い」に変更

<まちの姿1>

- ・「海、山、川を生かしてスポーツ、レジャーなどの趣味が実現できている」を削除
- ・「いつでも自然と触れ合うことができる」に「海、山、川などの豊かな自然に」を追加

<まちの姿2>

- ・「自給自足」を「地産地消」に変更

<まちの姿3>

- ・「趣味が実現」を「観光資源が充実」に変更

<まちの姿5>

- ・平塚市の特徴の1つである自転車について記載できないか。
- ・「誰にとっても過ごしやすいバリアフリーが実現されている」はまちの姿4に移動
- ・「上下水道の整備や廃棄物処理など暮らしに密着した生活環境が充実している」を追加

<まちの姿6>

- ・「話し合った内容」を「市民の声」に変更

<まちの姿7>

- ・「庭付き一戸建て」を「マイホーム」に変更

【C班】

<タイトル>

- ・「皆に自慢できるまち」、「手をつなぎたくなるまち」、「私のふるさとは平塚ですと言えるまち」などに変更

<まちの姿1>

- ・「海、山、川を生かしてスポーツ、レジャーなどの趣味が実現できている」を「みどり豊かなまちになっている」に変更

<まちの姿4>

- ・「お互いを認め合い、誰一人取り残さないまち」を「すべての人に優しいまち」に変更

<まちの姿5>

- ・「いのちを大切に」を削除

<まちの姿7>

- ・「海、山、川を生かして」を削除

【D班】

<タイトル>

- ・「10年後、20年後につなげる」を「豊かなくらしの中で1人1人が主役、輝ける街」に変更
- ・「みんなで挑戦、助け合おう」を「みんなで協力、明るい未来を共に築こう」に変更

【E班】

<まちの姿1>

- ・「たくさん」を「大切な、かけがえのない、成長につながる」のいずれかに変更

<まちの姿2>

- ・「誰もが働く機会」を「誰もが理解し合い、働く機会」に変更
- ・「仕事と趣味が」を「仕事と趣味の選択肢があり」に変更

<まちの姿3>

- ・「両立」を「共存・共生」に変更
- ・「商店街」を「商店街と市民」に、「自ら」を「互いに」に変更

<まちの姿4>

- ・「取り残さないまち」を「取り残さない優しいまち」に変更

<まちの姿5>

- ・「子どもや高齢者の交通事故が減っている」を「交通対策が充実しており、子供や高齢者が安心して過ごせている」に変更

<まちの姿7>

- ・「コスパが良く、庭付き一戸建てを買うことができる」を「様々な暮らし方を選択することが出来る」に変更

【F班】

<まちの姿1>

- ・「帰ってきたときに」を削除
- ・「海、山、川を生かしてスポーツ、レジャーなどの趣味が実現できている」を削除
- ・「話ができる」を「交流ができる」に変更
- ・「散歩ができている」を「親子で散歩ができている」に変更
- ・「いつでも自然と」を「身近な自然と」に変更

<まちの姿2>

- ・「平塚が平塚を潤しているまち」を「平塚循環社会の実現」に変更
- ・「創業し」を「生まれ」に、「チャレンジ」を「時代に合わせて変革」に変更
- ・「地元を発展させる企業がたくさんあり」を削除
- ・「働く機会がある」を「働く場所がある」に変更
- ・「仕事と趣味が市内で完結している」を削除
- ・「自給自足している」を「「ひらつか地産地消」ができるまち」に変更

<まちの姿3>

- ・「活気ある商店街が」を「商店街が生き活きとして」に、
「バズっている」を「関心を集めている」に変更

<まちの姿4>

- ・「誰一人取り残さないまち」を「みんなに寄り添うまち」に変更
- ・「学ぶチャンスがある」を「学ぶことができる」に変更
- ・「将来を考えて」を「協力し合って」に変更
- ・「地域の大人が子どもの面倒をみて、子育てに余裕ができている」を
「地域全員が子育てを応援する」に変更
- ・「異文化を受入れて、外国語を使って外国の人と話している」を
「海外交流が盛んである」に変更

<まちの姿5>

- ・「防災対策が充実している」を削除
- ・「防犯対策が充実しており」を「防災・防犯が充実しており」に変更
- ・「子どもや高齢者の交通事故が減っている」を「交通事故がないまち」に変更
- ・「誰にとっても過ごしやすい」を削除

<まちの姿6>

- ・「全員参加の」を削除
- ・「世代」を「時代・世代」に変更
- ・「話し合った内容が」を「市民の意見が」に変更
- ・「小中学生が」を「子どもたちが」に変更

<まちの姿7>

- ・「時間がかからず」を「時間をかけず」に、「趣味など」を「余暇」に変更
- ・「教育がされている」を「機会がある」に変更
- ・「海、山、川を生かしてスポーツ、レジャーなどの趣味が実現できている」を削除
- ・「コスパが良く、庭付き一戸建てを～」を「理想の住まいを持てる」に変更
- ・「フル活用されている」を「開放されて人が集まっている」に変更

いつでもホッとするまち

- ・年齢や性別に関係なく交流ができる居場所がある
- ・赤ちゃんがニコニコしながら親子で散歩できている
- ・子どもがたくさん大切な思い出を作っている
- ・海、山、川などの豊かな自然にいつでも触れ合うことができる
- ・多くの人が平塚市を訪れている

平塚が平塚を潤しているまち

- ・新しい企業が創業し、老舗企業も時代に合わせ変革している
- ・若者が平塚で働きたいと思える場所がある
- ・若者、子育て世代、高齢者、障がい者など、誰もが理解し合い、働く場所がある
- ・仕事も趣味も満足できる環境が市内に揃っている
- ・食と再生可能エネルギーを地産地消している

自然と賑わいが共存するまち

- ・誰もが自然を大切にする気持ちを持っている
- ・海、山、川を活かしてスポーツ、レジャーなどの観光資源が充実できている
- ・活気ある商店街と市民が、魅力を発信してバズっている
- ・七夕などの文化が継承されている
- ・目で見て楽しめる、食べて楽しめるお店がある

心豊かな生活ができるまち

- ・通勤に時間をかけずに、余暇に使える時間が持っている
- ・市の文化や歴史を知る機会がある
- ・レジャーなどの趣味が実現できている
- ・コスパが良く、様々な暮らし方を選択することができる
- ・文化施設や総合公園、公民館等がより開放されて人が集まっている

未来につなげる
私たちが主役のひらつか
“協力・チャレンジして明るい未来へ”

お互いを認め合い、 優しいまち

- ・人生を切れ目なく自助、共助、公助でサポートできている
- ・社会人、子ども、みんながいつまでも学ぶことができる
- ・市民、企業、市が将来に向けて協力し合って考えて行動している
- ・地域全員が子育てを応援して、余裕ができている
- ・異文化を受入れて、外国語を使って外国の人と話している
- ・誰にとっても過ごしやすいバリアフリーが実現されている

全員参加のコミュニケーションが 活発なまち

- ・時代、世代に合わせた伝達手段を使って、必要な情報が必要な時に手に入る
- ・新鮮な情報が人から人へ伝わっている
- ・市、市民、企業がまちの魅力を発信している
- ・市民の意見がまちづくりに反映、共有されている
- ・子どもたちが平塚市のことを好きになっている

いのちを大切に、 安心・安全に暮らせるまち

- ・防災対策が充実している
- ・防犯対策が充実しており、治安が良い
- ・交通事故がなくなっている
- ・交通網や交通手段が改善され、「どこでもドア」がなくても便利に移動できている
- ・上下水道やごみ処理など、暮らしに密着した生活環境が充実している。

參考資料

◆平塚市

総合計画市民ワークショップ

～未来につなぐ平塚市の将来像～

参加者
募集

全国的な傾向と同様、平塚市でも、高齢者が増えるとともに、子どもたちが減ってきています。将来、このまちの主役となる子どもたちが希望を持ち、さらには、誰もがその人らしく暮らせるように、今、私たちが大切に思うものを将来へつないでいく必要があります。

拡大や成長を前提としたまちづくりから、人と人とのつながりや心の豊かさを大切にしたいまちづくりへ、これまでとは違った価値観が求められています。

そこで、多様な経験や考えを持った方々と楽しみながら、知恵を出し合い、未来へつないでいきたい平塚市の将来像について話し合ってみませんか。

なお、この市民ワークショップの結果については、次期総合計画策定へ生かしていきます。

応募期限 令和4年9月30日（金）まで

◆開催日時

回	日時	実施内容
第1回	令和5年1月28日（土）	9時～12時 （午前中の 3時間程度 を予定して います。） 基調講演 （平塚市の現状・将来展望について） グループワーク （ワークショップ形式で話し合い） グループワーク（まとめ）
第2回	令和5年2月5日（日）	
第3回	令和5年2月12日（日）	
第4回	令和5年2月25日（土）	

◆会場

市庁舎本館3階302会議室（平塚市浅間町9番1号）又は、
勤労会館3階大会議室（平塚市追分1番24号）

◆対象・募集人数

令和4年9月実施の「平塚市市民意識調査」の宛名の方で、かつ、
4日間参加可能な方を20名募集します。（調査への回答の有無は問いません。）

◆参加謝礼

1回当たり4,000円分の図書カード（全4回参加で最大16,000円分）

申込方法等の詳細は裏面をご覧ください

◆総合計画とは？

総合計画とは、市町村における「まちづくりの最も基本となる計画」です。

本市が持つ豊かな自然環境、歴史や産業などの地域資源を生かしながら、今後想定される課題や財政状況などを踏まえながら、平塚市をどのようなまちにしていけるか、また、そのためには、だれが、どのように取り組むのかを取りまとめたものです。

◆申込方法

①郵送、②ウェブ(e-kanagawa)のいずれかの方法でお申し込みください。

① 郵送

同封の応募用紙に必要事項を記入の上、返信用封筒にて企画政策課まで申し込みをしてください。

なお、ファックス及び電子メールでは、受付いたしません。

② ウェブ (e-kanagawa)

URL又は2次元バーコードから専用ページにアクセスして、2次元バーコードを読み取り、応募フォームから申し込みをしてください。

URL

https://dshinsei.e-kanagawa.lg.jp/142034-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=34847

2次元バーコード



◆応募結果

応募の結果につきましては、ご応募いただいた全ての方に対して、令和4年11月下旬を目途に文書にてお知らせします。

なお、応募者が募集人数を超えた場合は、性別、年齢、居住地、参加可能日数等のバランスを考慮して、決定させていただきます。

◆その他

市民ワークショップのとりまとめ結果については、後日ホームページで公開します。

《お問合せ先》

〒254-8686 平塚市浅間町9番1号

平塚市企画政策部 企画政策課 計画推進担当

電話:0463-23-1111 内線2164、2326

